



随筆と民具で我孫子の「むかし」を描く展示を開催

随筆と民具で我孫子の「むかし」を描く展示を開催

場所 : 杉村楚人冠記念館

展示名称 : 我孫子市市制施行 50 周年・我孫子を知る一年企画「随筆に書かれた我孫子のむかし」

期間 : 令和2年10月3日(土)～令和3年1月11日(月・祝)

※月曜日(休日の場合次の平日)と12月29日～1月3日 休館

入館料 : 一般300円/高校・大学生 200円

展示概要 : 農具5点、漁具3点、鳥猟具1点、書籍1点ほか、
バーナード・リーチ・佐藤鷹蔵イス1点、昭和12年ごろ製作の模造埴輪1点

教育委員会では、我孫子市市制施行 50 周年を記念し、「我孫子を知る一年」と題した企画を展開しています。杉村楚人冠記念館ではその一環として、企画展「随筆に書かれた我孫子のむかし」を開催します。

歴史書に登場しない、名前が残らない人びとの暮らしぶりは、身近なようでいて、わからないこと、意外なことが多いものです。生活の歴史を記録する方法の一つに、くらしに用いる道具、すなわち民具を収集しておくことがあります。さらに我孫子の場合、杉村楚人冠が人びとの暮らしぶりを得意の随筆で書き残してくれた幸運があります。この展示では、民具と楚人冠の随筆を組み合わせ、大正から昭和初期ごろの我孫子の水田稲作、畑作、漁業、鳥猟の姿を描きます。

さらに、杉村楚人冠の随筆に登場する「鷹大工」こと佐藤鷹蔵がバーナード・リーチの依頼を受けて製作したイスを、通常は旧村川別荘で展示しているものから1点、また同じく楚人冠の随筆に登場する我孫子の瀬戸物屋が作った模造埴輪を、杉村楚人冠の旧蔵品から1点加えて、個性的な職人の存在にもスポットをあてます。

市制施行 50 周年の節目に、我孫子への関心を深めることができる展示です。

【問い合わせ】

我孫子市生涯学習部文化・スポーツ課

杉村楚人冠記念館 担当 高木

☎ 04-7187-1131

(内線61-802)